

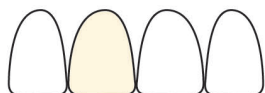
素材選びのポイント

被せ物や詰め物は、一度つけると数年間使い続けることがほとんどです。次の項目を比較して上手に選びましょう。

✧見た目の美しさ✧

保険の前歯

透明感がなく不自然に見える。



セラミック素材

天然の歯のように仕上がり、とてもキレイに見える。

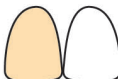


笑ったときに見える歯が白くてキレイだと印象もよくなる。特に前歯は目立つよ。

☞ 耐久性 ☞

保険

【銀歯】丈夫だけど銀歯の下がむし歯になりやすい。
【前歯】変色してしまう。



セラミック

数年経っても劣化・変色なし。長持ち。

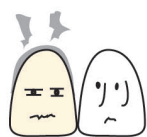


耐久性は重要。劣化や破損は作り直しになるだけでなく、その度に歯は削られ、歯の寿命に影響するからね。

♡ 体への優しさ ♡

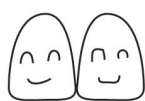
保険

金属部分がイオン化して溶け出し、金属アレルギーの原因になることも。



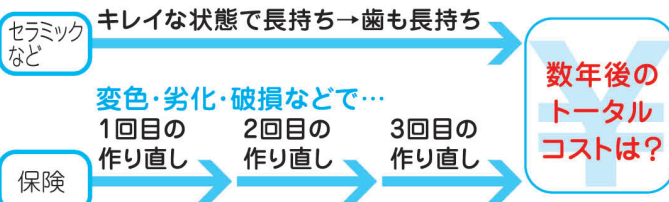
オールセラミックやジルコニア

金属を使わないから安心です。



ずっとお口に入っているものだから、体への影響もしっかり考えないとね。

👉 費用 👉



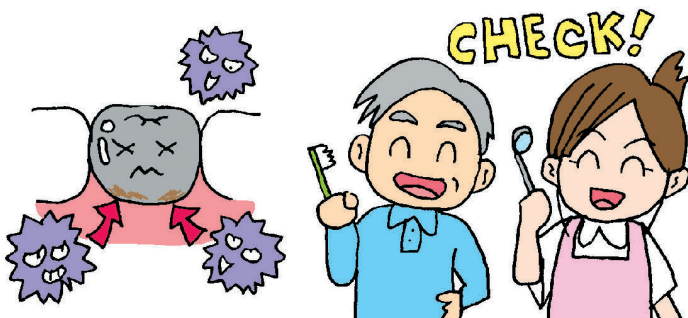
費用は、今の費用だけでなく将来のコストも考えてほしいんだ。

歯のQ&A

Q 被せ物をした歯もむし歯になりますか?

A 被せ物や詰め物をした歯もむし歯になります。一度、むし歯の治療をした所にできるむし歯を「二次う蝕(にじうしょく)」といいます。実は、大人のむし歯治療で多いのは、新たにできるむし歯の治療より「二次う蝕」のほうが多いのです。

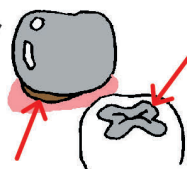
二次う蝕にならないためには、毎日の歯磨き、歯科医院での定期的なチェックとケアが大切です。特に神経を取った歯は、むし歯になっても痛みを感じません。気づいた時にはむし歯が進行している場合があるので気をつけましょう。



二次う蝕の注意ポイント

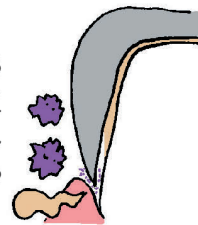
装着物との隙間や段差

“被せ物・詰め物などの装着物”自体はむし歯になりませんが、天然の歯と装着物の間にできたわずかな隙間や段差からむし歯になります。



歯科材料の劣化による隙間

被せ物などを歯に装着する際に使われる“歯科用セメント”は、年月の経過と共に劣化し溶け出してしまいます。溶け出した部分は隙間となり、むし歯菌が溜まりやすくなります。



また、小さなむし歯の治療で使われる“白いプラスチックの材料”はセメントを使いませんが、劣化しやすい材料です。

むし歯になりやすいお口の環境

むし歯の治療をするということは、お口にむし歯菌が存在している、甘いものや間食が多い食習慣、みがき残しの多い清掃状態といった、むし歯になりやすいお口の環境といえます。一度むし歯を治しても、むし歯になりやすいお口の環境、生活習慣のままだと、再びむし歯になってしまいます。

